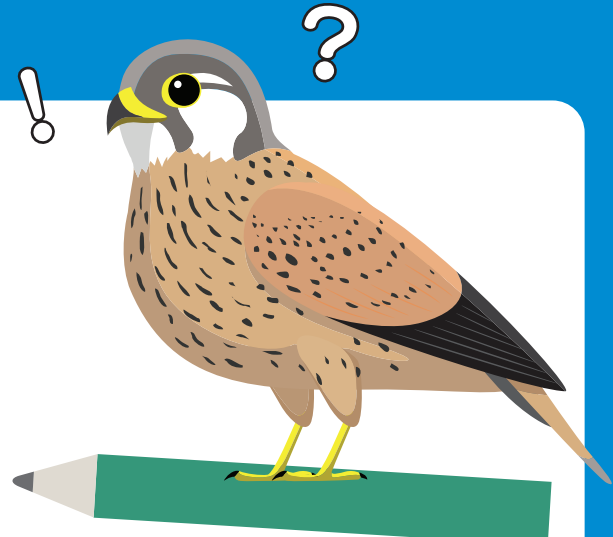


教えて!! 本村さん

# チョウゲンボウ

に関すること

市の学芸員で「チョウゲンボウの先生」こと本村健さんに、チョウゲンボウにまつわるいろいろなことを聞いてみました。



## 性別

### Q.

#### オスとメスの違い

オスとメスの見分け方は？  
どっちがかわいい？

### A.

オスは頭と尾羽がうすい青色で背中はレンガ色、メスは全体的に薄い茶色です。大きさはオスがメスより小さいです。色鮮やかで、小さいオスがメスに好まれます。

オスが小ぶりのためかわいく見えます。羽ばたき方もオスがメスより小刻みです。

## 家族

### Q.

#### チョウゲンボウの家族

巣立ちまでの期間は？  
ずっと家族で生活するの？

### A.

卵から孵ったヒナは、約1カ月程で（通常5月から6月）巣立ちます。その後は家族で巣を離れるものもあれば、子どもだけなくなる場合もあります。つがいは短期間で相手が変わることが多いようです。このようにずっと家族で生活するわけではありませんが、巣立ち後に親の近くで生活する子どももいるようです。

## 飼育

### Q.

#### チョウゲンボウの飼育

飼うことはできる？

### A.

基本的に飼えません。特別に県から許可を得て飼える場合もありますが、主に大学や研究所などに限られます。インターネットで調べると販売されているチョウゲンボウもいますが、これらは海外でケガなどをした個体から生まれた子どもで、証明書が付いています。

## 知覚

### Q.

#### チョウゲンボウの目①

人間に見えないものが見える？

### A.

チョウゲンボウは紫外線が見えます。主食のハタネズミ類の糞や尿に紫外線が反射するため、チョウゲンボウはそれを手掛かりに、獲物の居場所を知ることができます。他の鳥も紫外線が見えますが、紫外線を餌の捕獲に利用していることが初めてわかったのが、チョウゲンボウです。

## 知覚

### Q.

#### チョウゲンボウの目②

白目の部分はないの？

### A.

白目の部分はありますが、外見上見えません。人間でいう黒目の部分だけが見えているのです。黒目も外側の虹彩と中央の瞳孔に分かれますが、鳥類には虹彩が黄色や白っぽい種がありそが白目のように見えてしまいます。チョウゲンボウは虹彩も黒っぽいので、黒目が大きいように見えます。

## 知覚

### Q.

#### チョウゲンボウの目③

夜は目が見えるの？

### A.

チョウゲンボウは夜も目が見えます。かなり暗くなってから、獲物を捕らえて巣に帰ってきたチョウゲンボウを見たことがあります。チョウゲンボウだけでなく、鳥類の多くは夜も目が見えます。夜に星を見て渡りをする小鳥類や、夜に餌を探すカモ類やサギ類など、夜に活動できる鳥も多くなります。



## チョウゲンボウは「益鳥」

益鳥とは、害虫を捕食したり、花の受粉を手伝ったりして、人や農産物などに良い影響を与える鳥類のことをいいます。

チョウゲンボウは、農作物や樹木に被害を与えるハタネズミを食べてくれる益鳥です。

益鳥にはほかに、水耕栽培で発生する害虫を捕食するツバメや、水田の稲についている害虫を捕食するカモ類などがいます。

## 畑の草刈りをしよう

チョウゲンボウが主にエサとしているハタネズミは、植物の根や野菜などを食べ、農作物に被害を与えます。

春や初秋に畦の草刈りをしておくことで、ハタネズミの侵入や越冬を減らすほか、チョウゲンボウがハタネズミを捕食しやすくなるため、農作物被害を減らす効果が期待できます。



## 十三崖 チョウゲンボウ応援団

「十三崖チョウゲンボウ応援団」（武田典一会長）は、国指定天然記念物「十三崖のチョウゲンボウ繁殖地」の保全を主な目的として設立された団体です。

十三崖周辺の外来植物の刈り取り、観察会、勉強会を行うことで、かつての十三崖の環境を取り戻し、チョウゲンボウを応援する活動を行っています。



▲応援団HP

## 巣箱をつくってみよう

日本ではあまり行われていませんが、海外ではチョウゲンボウの巣箱をつくって繁殖させ、ハタネズミ類からの農業被害を軽減させる取り組みが行われています。

日本でも巣箱に営巣した実績があります。縦30cm×横50cm×奥行き30cm程度の巣箱を、樹木以外で10m以上の高さに設置すれば、営巣する可能性があります。



## チョウゲンボウが住む 中野市の環境に誇りを持つ

中野市には、世界で唯一のチョウゲンボウの集団繁殖が可能な崖、十三崖があります。この崖を含む環境には、特徴的な地質や地形、気候、歴史などによってつくられた、中野市だけのストーリーがあります。十三崖のチョウゲンボウ繁殖地は、世界に誇れる環境なのです。

監修：本村健  
（中野市教育委員会事務局  
生涯学習課学芸員）

2001年、日本で唯一となるチョウゲンボウの生態研究により博士号を取得。十三崖のチョウゲンボウ保護に関わり、営巣数を増やすための活動を行っている。長崎県出身。



チョウゲンボウについて何かお気づきの点がありましたら、生涯学習課文化財係 ☎ 22-2111（内線 424）までご連絡ください。